

## おきなわ CSR フォーラム 2011

### 『分科会ワークショップ「協働模擬体験」まとめ』

■2011年10月28日（金）に開催いたしました「おきなわ CSR フォーラム 2011」。基調講演・県内事例紹介に続いて、第3部で行われました分科会ワークショップの様子をご報告致します。

各テーブルでそれぞれの立場を越えて活発な意見交換がされ、企業と NPO が肩を並べるキッカケとなりました。今後は互いの得意分野や業種をイメージし、具体的な協働相手のマッチングが生まれることを願い、みらいファンド沖縄は引き続きこの様な出会いの場を設けることが出来るよう取り組んでまいります。

■目的：企業と NPO が「向かい合う」のではなく、一緒に地域社会を創っていくパートナーとして、疑似協働作業を行うことを通じて、一体感を醸成する。

■内容：「沖縄を企業・NPO 連携で全国1位の県にする委員会」の委員になったつもりで、企業、NPO、行政、一般市民、学生、色んな立場の人がそれぞれの枠を超えて参加し、互いにチカラを合わせてもっと魅力的な社会を創るために、何が課題で何が必要かを一緒に考える。

■手法：約120名の参加者が所属に偏りがないように8～9名のグループを作る。各テーブルには沖縄県の NPO 中間支援団体の職員をファシリテーターとして配置し、意見の取りまとめなどを行う。

※下記の項目について3色の付箋紙に書き出し KJ 方式で意見交換する。

- ・黄色（課題）：「こういったことを改善したほうがいい」（改善点）
- ・赤色（提案）：「あるといい企業と NPO の連携（事例紹介）」「こんな仕組みや機会があるといい」
- ・青色（質問）：「互いに聞いてみたいこと」

#### ■ワークショップ全体のまとめ

##### 課題

どのグループからも企業と NPO が互いに知り合う場や情報発信の必要性が課題としてあげられ、互いにインターンシップなどの異業種間交流の実施や、NPO 共同 CM・カフェ CSR など互いの情報発信の機会・場を増やすべきとの意見が多く出ました。また、企業から NPO の組織力強化を求める意見もありました。

##### 提案

協働促進に関する提案として参加者それぞれの得意分野からアイデアが出され、沖縄の自然環境や島嶼性、海外とのネットワークなどの特長を活かした地域・社会作りをしていくべきとの意見が出ました。分野としては社会福祉や教育・環境に関する協働の提案（事例紹介）が多くみられました。

寄付や協働が育っていくためのマッチングとマネジメントの支援など仕組み作りについても提案があり、その実現の為に行政などの公的機関にコーディネーターとしての役割を期待する声も聞かれました。

##### 質問

企業と NPO が協働することのメリットや、NPO の資金運営がどうなっているのか、企業の社会貢献に求められるのは何かなど、それぞれの役割に立ち返っての質問が多く聞かれました。

■以下、各グループから出た主な意見。(他グループと重なる意見は割愛)

### グループ 1

#### 課題

・行政管理職や企業の経営者などの決定権を持つリーダーの認識不足 (他 2 グループ)

・CSR 活動として植林が流行っているが、植えたあとの管理を NPO などと連携して林業などの職に繋げるべき。(グリーンプロジェクト)

#### 提案

- ・高齢者への日用品宅配サービス。
- ・イオン 100 円遊び体験コーナーの青少年育成。
- ・ダンボール会社による使用済み切手の収集による寄付。
- ・自然環境を守っていく連携エコツーリズム。
- ・公共施設などの植栽の管理をホームレスや貧困家庭の方々にしてもらう。(職の提供)
- ・保育施設の遊具などの提供。
- ・カフェ CSR (出会いの場)

#### 質問

・企業社員にどのくらい NPO が認知されているか。その教育が成されているか? どのくらい NPO に所属しているのか?

### グループ 2

#### 課題

・企業とNPOが互いに交流、議論するための場の必要性 (例: 当フォーラム) (他 5 グループ)

・協働コーディネーターの必要性。

#### 提案

・企業⇄NPO間のインターンシップ人材交流 (他 3 グループ)

#### 質問

・そもそも企業と NPO が連携して取り組むべき、社会課題とはなにか?

### グループ 3

#### 課題

- ・協働を促進する資金面での支援の必要性。
- ・NPO の社会的マナーの改善。(顧客は誰か考える)

#### 提案

・異業種の企業同士が連携して NPO を創る (沖縄電力×自動車メーカー=エコカー)

#### 疑問

- ・NPO と企業の本質的な違いは? それぞれの組織の考え方の違いについて聞きたい。
- ・魅力的な社会を創るために、学生の関わり方にはどんなものがあるか?

### グループ 4

#### 課題

・寄付をもらう・与えるだけの関係性ではなく、一緒に事業を継続的に実施すべき。

#### 提案

- ・IT 産業を志望する若者は減少傾向にある。職業観の醸成のため NPO と連携して人材育成をしたい。
- ・高齢者と子どもが触れ合う機会の提供。

#### 質問

・企業が NPO との協働を模索する際に必要なのはどのような手順か? 仲介組織はあるのか?

### グループ 5

#### 課題

- ・ボランティア=タダという誤解。
- ・NPOの認知度の低さ。(他 3 グループ)

#### 提案

- ・沖縄の島嶼性を活かした、大洋州などの国際協力やウチナーンチュ大会のような世界のネットワークを活用した連携。
- ・コンビニに NPO の情報誌を置く、レシートの裏に公益活動を載せる。
- ・共同売店の様な地域で支え合う仕組みや運営方法を見習う。
- ・観光産業と環境 NPO の連携。
- ・NPO と企業のマッチング組織 (ハローワークのような) を作る。

#### 質問

・海外の寄付の概念について聞きたい。

## グループ 6

### 課題

- ・ NPO の組織力強化 (他 2 グループ)

### 提案

- ・ 企業が助成金の公開オーディションをして、NPO がプレゼンする。→NPO 同士のレベルアップにも繋がる。
- ・ 動物愛護、高齢福祉関係の分野の連携強化。
- ・ 寄付つき商品の普及。

### 疑問

- ・ NPO 職員の給料と NPO になって良かったことは？
- ・ NPO 法改正とは？

## グループ 7

### 課題

- ・ 継続性を保つためにも企業は本業の中で出来る CSR をすべき。

- ・ 情報の集約と発信、ウェブの活用不足。(他 4 グループ)

### 提案

- ・ 病院の魅力を高める連携。企業と共に入院している空間のハード・ソフト両方の質を高める。
- ・ 沖縄に避難居住者が社会復帰するための支援。
- ・ 企業間でも NPO 連携について情報交換・議論の場を設ける。
- ・ 行政が全体 (色々なセクター) を見据えて議論する場の提供をする。

## グループ 8

### 課題

- ・ 寄付システムの簡略化
- ・ 離島などの僻地問題 (特に高齢化) に若い人の参画が少ない。

### 提案

- ・ 企業と NPO 協働の大掃除チャリティーイベント (不参加の社員からは寄付を集める)
- ・ 類似の活動を組み合わせて展開。
- ・ 寄付のしやすさの仕組みづくり。
- ・ SNS を活用した県外への情報発信。

## グループ 9

### 課題

- ・ NPO の広報が弱い。

### 提案

- ・ 共同広報「AC」のようなCMをNPOの共同出資で実施。
- ・ 旅行会社と社会福祉系の NPO が連携してのバリアフリーのツアーの実施。
- ・ 企業の店舗を情報発信の場として使わせてもらおう。(パタゴニア×北限ジュゴンを見守る会の例)
- ・ NPO がシャッター街を活用する。
- ・ 買い物難民に対応してスーパー×NPO との連携

### 質問

- ・ 社員数の多い企業に何を求めますか？
- ・ NPO と企業の共通の利益を探す方法とは？

## グループ 10

### 課題

- ・ 地域コミュニティの喪失。(地域・家族間のコミュニケーション不足)

### 提案

- ・ イオン黄色いレシート
- ・ 社員の趣味を活かした事例があるといい。
- ・ 企業と連携することで、NPO の事業モデル自体が強化される。
- ・ 協働のマネジメント講座の実施。

### 質問

- ・ CSR 活動のメリットとは？→企業イメージ=商品のイメージアップ？
- ・ NPO はどうやってお金を集めているのか？
- ・ 企業の社会貢献に対して地域やNPOが何を求めているのかを知りたい。

上記グループの意見発表後、各テーブルごとに印象や感想などをフリーで振り返りをして終了。

以上